

全日本アマ本因坊学生

大関さん(商2)アマチュア囲碁のトップに



全日本アマ本因坊決定戦で表彰される大関さん(写真提供・毎日新聞社)

「目標を一つ一つ達成できて、うれしい」。アマチュア囲碁の頂点に立った大関さん(商2)は喜びを素直に表した。東京・日本棋院で行われた第60回日本学生本因坊決定戦(毎日新聞社、全日本学生囲碁連盟主催、8月6〜7日)で初の学生本因坊に。その勢いのまま第62回全日本アマチュア本因坊決定戦全大会(毎日新聞社、日本棋院主催、8月20〜21日)で初優勝を挙げた。アマ本因坊と学生本因坊両方の同時制覇は史上2人目。在学中がアマ本因坊になるのは専修大学が始まって以来の快挙だ。昨今の学生囲碁界はレベルアップが著しく、層も厚くなり学生本因坊戦は優勝候補が目白押しの中を戦った。専大入学前はプロを目指し日本棋院の院生として励んだ大関さん。「その時代をともに過ごした仲間が、今は大学生になり好敵手になっています」

昨年大関さんは、学生十傑、学生王座、学生世界王座を制した。元タイトルホルダーのプロ、王立誠九段を破る大金星を挙げている。主要学生棋戦の中で学生本因坊だけが準優勝で、なんとこれも取りたいタイトルだった。続くアマ本因坊戦ではタイトルを「狙っていません」という。若手が台頭し、出場64人中、大学生は8人。10代、20代が33人と半数以上を占めた。大関さんは、準決勝で同じ神奈川出身の日大生

を退け、「緊張した」という決勝戦では過去に入賞歴のある34歳の強豪を接戦の末、打ち破った。「戦を担いで」主要棋戦は常にスツ・ネクタイ姿で挑んできた。学生

を退け、「緊張した」という決勝戦では過去に入賞歴のある34歳の強豪を接戦の末、打ち破った。「戦を担いで」主要棋戦は常にスツ・ネクタイ姿で挑んできた。学生

高校生のための経営学実践講座



アイデアをまとめ、分かりやすく発表した

身近なファストフードを題材に、高校生に「経営」を体験してもらおう夏休み恒例の公開講座「第11回高校生のための経営学実践講座」(協力・㈱モスフードサービス)が8月7日、生田キャンパスで開かれた。東京都や神奈川、千葉、埼玉、山梨、静岡の各県から過去最多の65人が集合。フレッシュなアイデアが披露された。8チームに分かれ、高校生を増やすための

「ハンバーガーの野菜の量を調節してお安くできます」とアピールし会場を沸かせたチームが、モス社の「ベストパフォーマンス賞」を獲得した。専大賞1位は、ハンバーガーのサイズの多様化やスマートフォン充電コード貸し出しなどを提案したチーム。一昨年も参加した岡本泉さん(川崎商高3年)がリーダーシップを発揮しモス社の「ベストコンセプト賞」も受賞した。司会の間嶋崇教授からは「経営戦略」や「競争戦略」について解説もあつた。高1の参加者は「学



昨夏ラオスでの海外特別研修で右から3人目が奈良さん

インドネシアで活動

日本語パートナーズ 奈良さん(経済3)

東南アジアの中学・高校で日本語教師のアシスタントをする「日本語パートナーズ」として、奈良さん(経済3)が9月から6カ月間、インドネシアで活動する。奈良さんは「現地の高校生と交流したい」と胸を膨らませる。「日本語パートナーズ」のことは、昨年度受講した国際経済学科の専門科目「海外特別研修」で担当の飯沼健子教授から聞き興味を持った。経験や資

「日本語パートナーズ」のことは、昨年度受講した国際経済学科の専門科目「海外特別研修」で担当の飯沼健子教授から聞き興味を持った。経験や資

年齢も近いので友だちのような存在になりたい」と奈良さん。伝統舞踊、音楽などインドネシアの文化に触れることも楽しみにしている。

「アニメ、マンガといったサブカルチャーなど現代の日本の文化や、等身大の日本の大学生の姿を伝えたい。高校生とは3カ月から10カ月。

ワンダー・チームメイトチア教室など実施



「スタッツ」を体験=7月30日、チアリーディング教室

体育会の地域貢献活動「ワンダー・チームメイト」が生田キャンパスを中心に開催されている。今年は23種目30教室を実施。参加した小中高生

1年次生が活躍 東京都杖道大会 専大勢活躍 第28回東京都杖道大会(東京都剣道連盟主催、東京新聞など後援)が7月9日、東京・足立区の東京武蔵道会(一級以下)の部で優勝と準優勝を挙げるなど1年次生の活躍が目立ったほか、五段と二段の部で準優勝となった。杖道は長さ128センチ、太さ2.4センチの棒を使い、二人一組で演武、技の美しさなどを競う。専大杖道会の入賞者は

2016年神田鳳祭

11月3日(木祝)〜6日(日)

10月8日(土)・9日(日)

神田キャンパス

創立137周年鳳祭

11月3日(木祝)〜6日(日)

生田キャンパス

手前が優勝の島村・齋藤組、右奥が準優勝の武藤・佐伯組

岸野紘子(平18経営)

二以下の部

①島村ふき(法1)・齋藤友宏(経営1)②武藤(法1)

③ 向後知恵(法3)

④河上珠枝 佐伯孝大(法1)

最新の花粉症治療

今日、花粉症は先進国を中心に世界的に増加しています。日本でも同様に増加しており、全国で26.5%にスギ花粉症が認められたとの結果が報告されています。スギ花粉症は10〜50歳代に発症しており、勉強や仕事に精神的に取り組み年代のため、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかすみ、涙目によるQOL(生活の質)の低下が問題になっています。スギ花粉症の治療には、薬物療法、アレルギー免疫療法、手術療法等があります。従来、皮下注射によるアレルギー免疫療法が中心でしたが、注射の痛みや長期に渡る通院、アナフィラキシーの副作用が課題となっていました。そこで、2年前より保険適応となった舌下免疫療法に注目が集まっています。舌下免疫療法とは、アレルギーの原因物質(アレルゲン)を含むエキスを舌下に投与し、体内に吸収させることでアレルギー反応を弱めていく治療法です。注射の痛みや通院の必要がありません。

健康フラッシュ

花粉が飛散してから治療を開始すると、アレルゲンとの接触量が増えすぎてしまうことかまっています。舌下免疫療法は、12月に治療開始することが望ましいです。スギ花粉症で悩んでいる方は、医師とよく相談のうえ治療を検討してみてください。

健康フラッシュ

花粉が飛散してから治療を開始すると、アレルゲンとの接触量が増えすぎてしまうことかまっています。舌下免疫療法は、12月に治療開始することが望ましいです。スギ花粉症で悩んでいる方は、医師とよく相談のうえ治療を検討してみてください。